

日時・場所	令和2年9月14日(月)10時00分～ 庁議室
出席者	山仲市長、西村教育長、田中議会事務局長、川端政策調整部長、吉川病院事務部長、市木総務部長、長尾市民部長、吉田健康福祉部長、赤坂健康福祉部政策監、三上都市建設部長、武内環境経済部長、杉本教育部長、遠藤会計管理者、川尻政策調整部次長、北脇広報秘書課長、事務局(企画調整課)

1. 市長指示事項

- ・議会の開会中だが、各部長には委員会での丁寧な対応に感謝する。
- ・現在、新しい計画や事業を作っているが、“こと”を新しくしても、やり方が旧来のままではその中身が発揮できない。「新しい酒は新しい革袋に盛れ」という諺があるが、計画づくりを旧来のやり方でやったり、事業でもあまり工夫せず慣れ親しんだ手の内でやったりしてしまうことが往々にしてある。やり方を変えることが目的ではないが、現状や社会状況、市民の思いに合ったやり方になるよう工夫してもらいたい。色々なところで、新しい計画を従来通りの古いやり方で漫然と作っている事例が見受けられるので、もう一度注意喚起すること。
- ・仕事のやり方は現場主義で足元を見てやってもらいたい、社会状況や経済状況、国の制度変更等があるので、それも視野に入れていかないといけない。担当者任せにならないように、部次長や課長も含めて、できるだけ最新の動向等の情報を把握すること。
- ・民間感覚とよく言われるが、野洲市は現実的、合理的にやっている。鼻屑目でなく、逆に民間の方が古く固いお役所仕事という場合があるので、自信をもってやってもらいたい。民間とは対等にやっているが、古いしがらみで提案があつたりした場合にも、展望が持てるような形で対応すること。
- ・昨日、職員採用の最終面接を行ったが、前向きな方が沢山来てくれた。面接対策という部分は差し引く必要はあるが、様々な分野で取り組んでいることを見て応募されている。先程の民間感覚の話と同じで、市役所だから古いやり方ではなく、それぞれが刷新しながらやってきていることが結果として表れているので、これまでどおり、また、それ以上に新しいやり方で進めてもらいたい。

2. 議題

① AI音声認識による議事録作成支援システムに係る実証実験の結果について

標記の実証実験について、利用のあった所属へのアンケート調査により、その効果と導入に向けた課題をまとめたので報告する。今回の実証実験では、導入による一定の効果が確認でき、増大していく業務量をAIの活用によって削減していく先駆けとして導入する意義は大きいと判断したため、導入に向けた検討を進める。なお、本システムの導入にあたっては、音声を鮮明に録音できるマイク設備を併せて導入する。

→結果として来年度から導入するのか。

→利用のなかった所属にも聞き取りを行い、コストや効果額の精度を上げ、導入の方向で進めていきたい。

→一言一句の記録では読むのが大変であり、要約筆記は必要である。ただ、一言一句の記録も必要であるなら、人がやるより機械的にやった方が良い。このシステムが完璧になったらやるとか、かなりの会議に対応できるからやると言うより、この手段も取り入れながら、デジタルとアナログの両方を柔軟に選択できるように、前向きに検討してはどうか。

→近隣で導入した自治体でも効果が高いとの結果が出ていることから、前向きに導入の方向で

進めたい。

② 第8回 野洲市民病院整備運営評価委員会 会議結果

8月25日(火)に開催された第8回野洲市民病院整備運営評価委員会の会議結果を報告する。評価委員会委員長の選出や、野洲市民病院整備修正設計業務及び市民病院事業にかかる収支計画について審議いただいた。

③ 新生児特別定額給付金事業の概要について

本事業は、新型コロナウイルス感染症対策として実施された国制度の「特別定額給付金」の給付対象外である、令和2年4月28日以降に生まれた子どもに対し、市の独自施策として、特別定額給付金と同じく1人につき10万円を給付する。事業費は総額42,428千円であり、地方創生臨時交付金にて対応予定である。

→給付対象者を令和3年2月28日までに生まれたこどもとした理由は何か。

→基準日である令和2年4月27日時点で母親の胎内に胎児としておられた方という想定で、妊娠期間を考慮して設定した。

→学年の区切り等とは異なるため、説明がないと市民には分かりづらいのではないか。

→年度末までにしてしまうと、繰越事業として翌年度執行せざるを得なくなってしまう。

→給付の事務処理手続き上、制約があるため設定したと追記しておくこと。

④ 特別定額給付金事業の実施状況について

本事業は新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として「特別定額給付金」をすべての市民へ給付するものであり、基準日において野洲市の住民基本台帳に記録されている人を対象に、1人当たり10万円を給付した。給付率は、世帯数では99.64%、人数では99.82%となった。

→給付を希望しない5人の方は給付実績に含まれないのか。

→含まれない。

⑤ 予備費の充用について

野洲市議会議員補欠選挙が想定されるため、準備に時間を要する消耗品等に予備費を充用したので報告する。その他費用については補欠選挙実施が確定した場合、専決処分にて対応する。

⑥ 湖南広域行政組合(消防事業)負担金の見直しについて

本市の湖南広域行政組合への負担金が他市と比べると高く設定されており、人口1人当たりの負担額に格差が出ているため、同組合に対し公平な費用負担について見直しを行うよう申し入れを行うことについて報告する。

⑦ 野洲駅周辺の喫煙所について

JR野洲駅北口喫煙所の喫煙マナー対策として、日本たばこ産業株式会社から目隠しパネルや路面標示シール等を寄付頂き、順次設置していることを報告する。

また、野洲文化ホール及びコミュニティセンターやすでで共用している喫煙所については、10月1日(木)から廃止し、本施設は敷地内全面禁煙とすることを報告する。

→コミセンやす以外のコミセンでは既に敷地内禁煙になっているのか。

→個別に協議しているところであり、統一した対応とはなっていない。

→文化ホールを全面禁煙とするにあたって、場所の選定等は検討したのか。分煙には賛成だが、喫煙場所を排除していくというやり方には疑問を持っている。一定の喫煙者がおられるため、喫煙場所を提供すべきではないか。

→敷地内で代替場所を探したが見つからなかった。また、この場所に存置することもあり得ない。安易に廃止したものではないので、その検討のプロセスを追記しておくこと。

⑧ インフルエンザワクチン予防接種費用助成事業について

インフルエンザワクチンの接種率を向上させることによってその罹患者を低減させ、コロナ禍におけるインフルエンザ流行期の医療現場の混乱を抑えることを目的に、高齢者、義務教育以下の子ども及び妊婦を対象にインフルエンザ予防接種費用の一部を市が負担する。

→病院運営にとっては大変有難い。インフルエンザとコロナが同時に流行すれば医療現場は混乱が予想される。欲を言えば、全員がインフルエンザワクチンを接種してもらえれば、発熱患者はコロナとして対応に集中できる。補助だけでなく、制度対象外の方にもできるだけ多くの市民がインフルエンザワクチンを接種していただけるよう、呼びかけ等により周知願いたい。

⑨ 野洲市内の特定空家（美和コーポ B 棟）行政代執行費用の回収状況について

野洲市内の特定空家に係る行政代執行費用について、7月31日付で、所有者8名に対し、納付期限を8月20日として1人当たり13,125,828円を請求したところ、3名の全額支払いがあった。未納者5名については9月4日を納付期限として督促状を送付したが支払いがなかったため、今後は、既に相談を受けている未納者については納税推進課への移管を進めつつ、他の未納者については面談等を実施するため連絡を取っていく予定である。

⑩ 甲賀踏切拡幅整備事業について

市三宅地先の甲賀踏切拡幅整備工事について進捗状況を報告する。現状、当該踏切には歩道がなく、円滑な交通が阻害されている状況であるため、両側に歩道を設置して通行者の安全を確保する。今年度にJRと工事の委託に関する基本協定を締結し、令和4年度までの計画で整備を行う。

⑪ 第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会における野洲川歴史公園サッカー場（ビックレイク）整備の費用負担について

第79回国民スポーツ大会に向けて守山市が実施する野洲川歴史公園サッカー場の施設改修整備について、本市に費用負担を求める申し出があった。これに対し本市では「野洲川歴史公園サッカー場管理運営費負担に関する協定」に基づき、既存の老朽化施設の改修に要する費用のみを負担し、国スポにおける常設観覧席等の新たな施設整備に要する費用は負担しないとしたことを報告する。

→守山市は了承済みか。

→本市が申し出を受けるつもりがないことははっきり伝えており、一定は理解されている。

⑫ 全員協議会への提出事項について

9月23日（水）開催の全員協議会に報告事項9件、会議結果報告事項1件、連絡事項4件を提出する。

3. その他伝達事項

- 9月12日（土）に総合計画ワークショップ「おいでやすカフェ」を開催したところ、11名の参加があり、活発に意見交換いただいた。いただいた意見は計画に反映していきたい。（政策調整部）

4. 次回部長会議の予定

9月24日（木）8時45分～ 庁議室